

## 防災・日本再生シンポジウム

### 濃尾地震 120 周年シンポジウム

「濃尾地震から 120 年—その教訓を振り返る—」 報告

愛知・岐阜両県を中心に 7 千人を超える犠牲者を出した濃尾地震から 120 年目に当たり、この地震がその後の地震防災研究や、さまざまな防災施策等、日本社会に与えたインパクトや教訓を振り返り、今後の地震活動期における防災教育や地震被害軽減に生かすことを目的として、シンポジウムを実施した。

前半の講演では、①災害伝承、②活断層研究、③耐震建築、④地震防災の各視点から濃尾地震を検証し、後半のパネルディスカッションでは、地震学、活断層学、土木工学、災害報道、市民ボランティア観点から、濃尾地震が社会に与えたインパクトとその教訓を議論した。

会場には平日にも関わらず 4 百名近い市民や研究者が集まり、熱心に聴き入り、120 年前の震災と東日本大震災の共通点や今後の防災につながる教訓を改めて学ぶ機会となった。また、シンポジウムを共催、後援した愛知県防災局や名古屋地方気象台等の機関からの参加者も多く、今後の防災のあり方を一緒に考え、連携を深める場ともなった。マスコミからの関心も高く、朝日新聞(10/19,29)、中日新聞(10/23)、読売新聞(10/28,29)の他、地元テレビ局 4 社が取材報道した。

